

## I. 一般目標 (General Instructional Objective)

放射線医学は、現代医学の診断および治療の中核をなす学問であり、この分野の基本的知識は、医師として必要不可欠である。放射線診断と放射線治療における基礎知識の理解とインターベンショナルラジオロジー (IVR) の基本手技を習得することを目標とする。

## II. 行動目標 (Specific Behavioral Objectives)

### 1. 画像診断 (CT, MRI, PET, IVR) レポートを作成する

依頼科の要望に沿った最適な撮像法の決定と適切なレポート作成を行う。CTおよびMRIにおける造影検査の禁忌と副作用に対する対処法を学ぶ。

### 2. 放射線治療の適応と合併症を理解する

実際に治療計画をたてて遂行する。放射線照射による急性期障害 (嘔気・嘔吐、白血球減少など) や晩期障害 (皮膚炎、粘膜炎、口内乾燥など) を理解し、対処法を学ぶ。

### 3. 医療被曝について理解する

放射線が人体へ及ぼす影響を学ぶ。放射線を用いた検査および治療における被曝低減のノウハウを身につける。

### 4. IVRの基本手技の習得する

血管造影検査の基本手技、動脈性出血に対するTAEの適応とその手技、術後管理を学ぶ。

### 5. チーム医療の実践

医師としての心構え、患者さんとの接し方、チーム医療の重要性を理解する。

## III. 方略 (Learning Strategies)

以下の5コースの中から、1または2コースを研修する。

- ① CT・MRI
- ② 放射線治療
- ③ PET・核医学
- ④ IVR
- ⑤ 消化管造影・内視鏡・超音波検査

※上記以外に、主担当医として病棟研修を行うことも可能。

## IV. 経験できる疾患・手術など

### 画像診断:

脳神経、耳鼻科、口腔外科、呼吸器、消化器、循環器、骨軟部、乳腺など

### 放射線治療:

頭頸部がん、乳がん、悪性リンパ腫、膵臓がん、前立腺がん、転移性骨腫瘍、転移性脳腫瘍など

### IVR:

骨盤骨折など動脈性出血に対するTAE、動脈瘤や動静脈奇形のTAE、動注またはCVリザーバー留置術、頭頸部がんの動注、椎体形成術など

## V. 評価 (Evaluation)

Minimum EPOC・症例レポートによる自己評価・指導医評価。  
指導医・指導責任者による形成的評価。

## VI. 指導者と研修施設

1. 診療部長 安陪 等思
2. 指導責任者 長田 周治
3. 指導医 角 明子、久原 麻子
4. 研修施設 久留米大学病院

## VII. 週間予定

- 月 画像読影、放射線治療、消化管検査・エコー検査 (AM)
- 火 画像読影、放射線治療、IVR
- 水 画像読影、放射線治療、消化管検査・エコー検査 (AM)
- 木 画像読影、放射線治療、教授病棟回診 (AM)
- 金 画像読影、放射線治療、IVR、消化管検査・エコー検査 (AM)
- 土 病棟研修 (AM)

### カンファランス

- 月 IVRカンファランス、脳外科カンファランス、消化器カンファランス
- 火 耳鼻科カンファランス
- 水 呼吸器カンファランス
- 木 予演会、病棟カンファランス、放射線治療カンファランス
- 金 耳鼻科カンファランス

### 主な学会・セミナー・研究会

- 水 胸部疾患懇話会 (毎月第3週)
- 金 筑後レントゲンアーベント (毎月第3週)
- 筑後CT・MRI研究会 (毎月第4週)

日本医学放射線学会九州地方会 (2月、6月)、日本医学放射線学会総会 (4月)、日本医学放射線学会秋季臨床大会 (9月)、サマーセミナー (7月)、ウインターセミナー (1月)、九州MRI研究会 (1月、9月) など。

